

ひゃくさいほうもん

百歳訪問

インタビュー

ひやくねんい

百年生きる ということ



市では、敬老の日に合わせて、100歳になる人を訪問しています。今年度は23人の人が100歳になり、100歳以上の人が69人になります。(8月末現在)

今年、藤田市長が萩原に住む山内ミユキさんを訪問し、表彰状や記念品を贈呈しました。訪問した際、ミユキさんとご家族にお話を伺いました。

大正7年生まれの内山ミユキさんは来年の1月で100歳を迎えます。

生まれは那珂川町ですが、筑紫野市(当時は山口村)に移り住んで70年以上が経ちます。しかし、その間にはとても興味深いエピソードがありました。

時は戦時中、夫の鉄雄さんとは結婚してから初めて出会いました。「写真」とのお見合い結婚。今ではなかなか考えられませんが、当時は珍しいことではなかったといえます。「写真」との結婚式を行った後、出征していた鉄雄さんと満州で「ご対面」。

「写真で見た顔がハンサムだったから素敵な人だと思った」というミユキさんの目に、間違いはありませんでした。鉄雄さんは実際、家庭的で愛妻家。素敵な人でした。退職後は田畑づくりにいそしみ、二人で国内や台湾へ旅行にも出かけたそうです。

現在は、次男の英二さんと同居。英



二さんが作った黒にんにく、ゴーヤのスムージーなど健康的な料理を好き嫌いなく食べます。それもまた長寿の秘けつ。「親孝行してくれませう」という言葉に深い感謝の思いを感じます。

「草が生えているのを見ると動きたくなくなる」ミユキさん。英二さんは「目を離すと草むしりを始めるため、転んだだけ健康だということ。」

10月、子どもたちが集まって100歳のお祝いをするそうです。100年生きるということは、それだけたくさん愛を注ぎ、たくさんの人に愛されるということ。子から孫へ、孫からひ孫へ、愛が継承され、そして何倍にもなって返ってくるということ。たくさん愛に支えられて、今日も、明日も、生きるのです。

ミユキさん、いつまでもお元気で。



- 1 とても姿勢が良かったのが印象的でした
- 2 結婚して間もない頃の貴重な写真。夫の鉄雄さんは平成11年に先立たれましたが、素敵な夫婦だったことが伝わってきます
- 3 英二さん、二女的美枝子さんと一緒に